



— 自然免疫と健康維持 —

LSINは、特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク(Nonprofit Organization Linking Setouchi Innate immune Network)の略であり、平成13年に設立された自然免疫賦活技術研究会を母体として、平成18年3月22日に設立されたNPO法人です。詳しくは <http://www.lsin.org> をご覧ください!!

— 第30回自然免疫賦活技術研究会開催される —



平成21年9月17日(木)、サンメッセ香川(香川県高松市)で第30回自然免疫賦活技術研究会が開催され、新規参加の4機関を含め、計56名(計42機関)が参加しました。

今回の研究会では、四国経済産業局柴田眞作氏から平成22年度の経済産業政策の概要、産業技術総合研究所林克寛氏から産総研本格研究ワークショップ等情報発信について、高温高圧流体研究所加藤俊作氏から高温高圧流体及びマイクロ波応用技術の活用に関する講演がありました。

また、STEP伊藤英樹氏から今年6月に始まった新しい技術研究組合制度の説明がありました。これを受け杉源一郎会長から自然免疫賦活技術研究会の中に「自然免疫(活用or制御)技術研究組合」を設立する提案があり、討論が行われました。その結果、技術研究組合を設立する方向で具体的検討に入ることになりました。



本号のニュース

- ・第30回自然免疫賦活技術研究会の開催
- ・認定NPO法人申請に伴う寄附金について
- ・LSIN 構造改革特区の提案書提出
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介

— 目次 —

- ・第30回自然免疫賦活技術研究会開催される1
- ・第4回LSIN倫理委員会の開催1
- ・認定NPO法人申請に伴う寄附金について(お願い)2
- ・LSIN 構造改革特区の提案書提出2
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
第7回 株式会社東洋発酵3
- ・中小ものづくり高度化法に基づく「特定研究開発等計画」の認定 ..3
- ・ひげ博士のホットレポート—最新免疫学講座—4
- ・LSIN会員募集4
- ・編集後記4

第4回LSIN倫理委員会の開催

平成21年11月12日、高松シンボルタワーホール棟67会議室(香川県高松市)で第4回NPO法人環瀬戸内自然免疫ネットワーク(LSIN)倫理委員会が開催されました。LSIN臨床部会より審議事項が3題申請され、それぞれについて審議が行われました。

安全性・効果実証試験については、委員から計画書に抜けている項目があり追加で記載する必要がある事、試験対象者の適格項目や除外項目の明確化、健康被害が起こった際の対応(保険や体制について)、説明同意文書で平易な表現方法での記載等について意見が述べられました。

その結果、審議内容に沿って計画書等を修正し修正書類を各委員に送付する事、その資料をもとに意見を集約し、書類審議で議決を行う事になりました。12月10日に書類審議で11人の倫理委員全員の同意が得られたため、承認となりました。



認定NPO法人申請に伴う寄附金について(お願い)

当NPO法人の運営に日頃からご支援・ご協力を頂き感謝しております。

平成18年3月の徳島県知事認証、そして、平成21年3月の内閣府認証と展開して参りました。その間、二つの医療機関との連携協定を締結することができました。組織体制も充実に向かっております。NPO法人のゴールである認定NPO法人を目指しております。

ここで、認定NPO法人(国税庁長官の認定)になるための要件を以下に示します。

①パブリック・サポート・テスト(PST)が一定の基準以上であること②事業活動において、共益的な活動の占める割合が50%未満であること③運営組織および経理が適切であること④事業活動の内容が適切であること⑤情報公開を適切に行っていること⑥法令違反、不正の行為、公益に反する事業等がないこと⑦設立の日から1年を超える期間が経過し、少なくとも2つの事業年度を終えていること⑧所轄庁から法令等に違反する疑いがない旨の証明書の交付を受けていること、となっております。

関係者等にご協力をお願いしたいのは、PSTの要件のクリアです。PSTとは、NPO法人が広く一般から支持されているかどうか(寄附を受けているかどうか)を数値により測る指標です。

PSTの算式は、
[(受入寄附金総額－控除金額^{※1}＋社員の会費)／(総収入金額－控除金額^{※2})] \geq 1/5

※1：①一者当たり基準限度超過額(受入寄附金総額の10%を超える部分)②1,000円未満の寄附金 ③匿名の寄附金。 ※2：国の補助金等

内閣府国民生活局の調査によれば、認定取得希望はあるが申請準備を進めていない理由として、認定要件が満たせない：57.1%、作業スタッフ不足：38.8%等、PSTの基準を満たすことができない法人は8割を占めております。本年6月1日現在の都道府県認証法人は28,657法人、内閣府認証法人は2,559法人(8.9%)、認定法人は93法人(0.3%)です。

おわりに、当NPO法人に関心のある多数の方々のご理解とご支援を得て、認定NPO法人への活動基盤の充実・発展するために、個人、企業等からの寄附によって育てられるという「寄附文化」の浸透を願っております。

平成21年12月18日

NPO法人環瀬戸内自然免疫ネットワーク理事長 上田和男

LSIN 構造改革特区の提案書提出

LSINでは、平成20年11月より「構造改革特区」の取り組みを行っておりますが、昨年度に引き続き、平成21年11月11日に内閣府へ構造改革特区の提案書を提出しました。提案内容は以下のとおりです。

【要望事項(事項名)】

素材の機能性、安全性、配合量及びこの根拠に関するエビデンスを表示する健康志向食品等(仮称：健康支援食品・スキンケア製品)の製造と販売

【具体的事業の実施内容・提案理由】

食品素材等の機能性、安全性、配合量の表示が可能な特区創設。目的は消費者に素材の科学的事実を公開し、リテラシー向上を図ると共に根拠のない宣伝等に基づく健康被害の発生を予防することにある。上記の試みは社会実験としても重要である為、地域を限った範囲で実施することが望ましいと考え特区制度を活用するものである。

トクホは、最終製品の機能を調べる必要があり、試験費用が高く汎用性が低い。一方、地域には機能性があり、かつ地域に根ざした素材が多く存在している。そこで、素材の安全性や機能性、配合量等の明示や適切な情報提供は、消費者の製品選択に不可欠であるが薬事法第66条他による規制のためこれができない。

本提案内容は、食経験があり一定のPublicityを持つ素材に関して、安全性・機能性等に関する表示を可能とする措置を求める提案である。米国ではGRASで認可を取得した素材は、DSHEA法のもと機能性を表示できる。さらにStructure/Function Claimでは科学的に確認された証拠(論文等)を提示すれば素材の機能性を表記できる。米国の場合、安全性が担保されている素材であれば、機能性については表示を許可している。これら素材が配合された最終商品の選択は消費者に委ねられている。

日本には同様の制度はない。しかし、食品の機能に対する消費者の期待は、健康維持や疾患の予防が中心であり、医薬品等と同等の認可要件を求めることには無理がある。むしろ安全性を第一義として消費者の選択に任せられた製品群が安定かつ安価に供給されることが望ましい。本提案はこれらも参考にして、素材に関する表示の緩和を提案するものである。

提出した提案書は、以下のホームページで公開されています。

首相官邸 構造改革特別区域推進本部
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kouzou2/>

株式会社東洋発酵



【東洋発酵は独自性、高機能そしてエビデンスのある機能性素材の提供から製品まで】

東洋発酵は25年に渡り、化粧品、健康食品のコアの部分である天然の機能性素材を研究開発してきたモノづくり愛知を代表する愛知ブランド企業であると共に世界有数の研究開発型の天然機能性素材メーカーです。

東洋発酵は最先端の機能性素材の研究成果を基に製造する真に価値のある本物の製品を提供します。

真の本物の製品は美しいパッケージや華やかな宣伝ではなく成分(機能性素材)です。

本物のBEST OF THE BESTの製品を製造します。



事業内容	【健康食品・化粧品のオリジナル原料の研究・開発・販売】 当社の独自性のある天然機能性素材で、皆様の健康と美をサポートします。
企業PR	健康食品・サプリメントや化粧品の製品販売、PB・OEM受託のご提案を致します。
詳細	弊社は発酵、抽出技術を駆使し自社オリジナル原料の研究開発、販売する研究開発型の企業です。自社で開発した原料を使用し、健康食品・サプリメント、化粧品のOEM供給、且つ自社商品の販売等を手掛けております。 お客様のニーズにあわせた原料開発から製品化まで一環としてご提案できます。 また、美と健康のトータルケアをめざし、遺伝子解析や生体情報を、お客様のご要望に合わせ、仕組みからすべてご提案、ご提供をさせていただきます。 フリーラジカル消去：酸化ストレス修復素材として米胚芽：大豆を発酵抽出した素材が、またメタボリックシンドロームに対応する植物ステロール発酵抽出物、バラの花びらから抽出した抗酸化化粧品素材等、当社オリジナル特許素材を多く開発してまいりました。

中小ものづくり高度化法に基づく「特定研究開発等計画」の認定を受ける

自然免疫賦活技術研究会のメンバーである、自然免疫応用技研(株)(香川県高松市)と(株)東洋発酵(愛知県大府市)は、共同で申請した「米糠を利用した免疫賦活発酵食品素材の開発(発酵)」計画により、「中小企業のものづくり基盤技術の高度化に関する法律」(中小ものづくり高度化法)に基づく特定研究開発等計画の認定を受けました。

中小ものづくり高度化法(平成18年6月13日施行)は、中小企業のものづくり基盤技術(発酵、鋳造、鍛造、切削加工、めっき等20分野)の高度化を支援することにより、製造業の国際競争力の強化及び新たな事業の創出を図ることを目的としています。中小企業者は、単独又は共同で、特定ものづくり基盤技術に関する研究開発及びその成果の利用に関する計画(特定研究開発等計画)を作成し、中小ものづくり高度化法の規定に基づき、経済産業局長の認定を受けることにより、戦略的基盤技術高度化支援事業(委託事業)、日本政策金融公庫または商工中金による低利融資、中小企業信用保険法の特例、特許料等の特例等の支援措置を受けることができます。

認定を受けて両企業は、研究開発チームに香川大学医学部統合免疫システム学を加え、かがわ産業支援財団を管理法人として、経済産業省の公募型の研究開発助成事業である「平成21年度戦略的基盤技術高度化支援事業(平成21年度補正予算事業)」にも提案チャレンジし、10月26日付けで採択を受けました。本年6月1日から6月30日までの公募期間中、全国で合計658件、うち四国地域で13件の申請があり、採択決定数は、全国では158件、四国地域で2件です。

(株)東洋発酵は、香川県のインキュベーション施設であるNEXT香川の入居審査を経て、同施設内に新たに研究所を構え、自然免疫応用技研(株)および香川大と本格的共同研究開発体制をスタートさせています。研究開発概要は、「グラム陰性細菌と米糠を組み合わせた米糠発酵抽出物の製品化をめざし、製造法および品質管理技術を確立する」というもので、小麦発酵抽出物に続く、新たな糖脂質素材が生まれそうです。

ちょっと一息：ひげ博士のホットレポートー最新免疫学講座ー

おもしろいことがあるのう。知らんのか？それでは、話してあげようかのう。

テロメアという遺伝子の端は細胞分裂のたびに短くなる。それで細胞分裂の回数は決まっておると考える人もおるんじや。実際に年をとるにつれ、テロメアはだんだん短くなってくるものじや。ところが、生殖細胞はテロメアを長くする酵素、すなわちテロメラーゼを持っておる。だから、赤ちゃんはちゃんと長いテロメア持って生まれてくるんじやな。大人の乳腺細胞の核から作られたクローン羊のドリーはちゃんと短かったと言われておる。

ところで、マクロファージのテロメアが短いと活性酸素(酸化ストレス)によってダメージを受けやすくなるということが報告されたんじや。さらに、なんと、あの糖脂質がマクロファージのテロメラーゼ活性を高めるのじや。つなげて考えてみると、わしのような年寄りのマクロファージは活性酸素にやられやすいのじやが、糖脂質を摂ることでマクロファージが若返り、酸化ストレスにも強くなる可能性あるということじや。おもしろいのう。



LSIN会員募集

LSINでは会員を募集しています。LSINの活動に賛同していただける方であれば、どなたでも入会できます。

●入会金・年会費一覧

入会を希望される方は、以下の入会手続きをご参考ください。

(1)ホームページからの入会手続き

下記のURLにアクセスし、ホームページ内の「入会のご案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を明記の上、お申込ください。

LSIN URL : <http://www.lsin.org>

(2)郵送またはFAXによる入会手続き

「入会申込書」をLSIN事務局まで郵送あるいはFAXでご請求下さい。

「入会申込書」に必要事項を明記の上、事務局まで郵送あるいはFAXにて送付ください。

「入会申込書」の下部に記載している振込先へ、入会金・年会費をお振込ください。

事務局から「入会手続き完了」の連絡をお送りします。

※「入会手続き完了」のご連絡は、事務局にて入会申込書と入金照合し、入会手続きが完了した時点でお送りします。

入会申込書の送付と入会金・年会費のお振込完了後、2週間を過ぎても連絡がない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

入会金			年会費		
正会員	個人会員	10,000円	正会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
賛助会員	個人会員	10,000円	賛助会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
モニター会員	入会金なし		モニター会員	年会費なし	

〒761-0301 香川県高松市林町2217-16
FROM香川バイオ研究室

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

TEL:088-652-6026 FAX:087-887-3848
(MOBILE:090-2783-5885)

E-mail: npolsinlsin@lsin.org URL: <http://www.lsin.org>

編集後記

LSIN会員の皆様、ニュースレターNo.9をお届けします。

さて、今号では認定NPO法人申請に向けて、理事長より皆様へパブリック・サポート・テスト(PST)の要件をクリアするために寄附のお願いをいたしました。全認証NPO法人中、認定NPO法人はわずか0.3%であり、認定を受けるためには数々の高いハードルがあります。

その中でもPSTをクリアすることが一番の課題となっております。今後LSINの活動基盤の充実、さらに発

展していくために必要な申請だと考えておりますので、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

ところで、今年も早いもので残りわずかとなりました。インフルエンザがまだ猛威をふるっていますが、体調を崩さぬようご自愛ください、よいお年をお迎えください。

最後になりますが、お忙しい中、原稿をご執筆いただいた方々、編集委員の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

編集長 中本 尊

LSIN事務局

LSINニュースレター編集委員

編集長 中本 尊 編集員 稲川裕之 中本優子 谷口芳枝

平成21年12月18日発行